

平成 29 年 9 月 19 日

平成 28 年度授業アンケートの評価について

1 学期に関しては調査対象とした 58 科目中 36 科目 (62.1%) から、2 学期に関しては 41 科目中 27 科目 (65.9%) から回答を得ることが出来た。

平成 28 年度の結果は、平成 26～27 年度と概ね同様であり、本学院の授業内容やレベルは適切な水準を維持していると考えられる。シラバスに関連する設問 1～3 すべてにおいて、「強くそう思う」、「そう思う」との回答は 8 割を超え、各教員がシラバスに基づいた講義を着実に実施していることがわかる。また、設問 5～10 における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、7～8 割の学生が好意的な回答（「強くそう思う」、「そう思う」）をしている。

「授業への出席率（設問 11）」に関しては、9 割近くの学生が授業に 80%以上出席したと回答している。また、「授業が満足できるものであったか（設問 15）」との問いに対して「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生の割合も 8 割強と高いものであった。しかし、その一方で、「質問、発言、調査、自習などによる、授業への積極的な参加（設問 12）」や「授業による知的刺激、さらなる勉学意欲（設問 14）」に関する好意的な回答の割合は前年度よりもやや低下傾向にあった。また、授業 1 回の予習や復習に費やす時間（設問 13）も、最も少ない「1 時間未満」と回答する学生が増加していることから（1 学期：33.8→46.3%、2 学期：21.9→39.9%）、学生の主体的学習意欲の低下との関連性の有無に注意が必要である。

上記の内容を踏まえつつ、授業内容のさらなる向上を堅実に進め、今後も本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成を推進していきたい所存である。

北海道大学大学院環境科学院

学院長・教務委員会委員長・教授 久保川 厚

執行部室・特任助教

川西 亮太